

令和2年度 学校評価(星城高等学校)

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立		
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成		
学校経営方針	建学の精神を具現化した生徒像が“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間である。そしてその育成の中心になるのが「4つの柱」である。この観点に立ち、今年度の経営方針を「4つの柱」(礼節、進学、スポーツ、国際交流)の着実な進展とする。その上で「英語の星城」と人々の口に謳われることを目指し、英語の民間検定資格取得にも注力する。またSGL活動の一層の推進に取り組む 本年度は、令和4年度から実施する教育課程の大幅変更に向けた準備の實質的な最終年に当たる。各コースの充実を目指し、全校をあげて改革に取り組む。		
重点目標	I 礼節の星城 II 進学の星城 III スポーツの星城 IV 国際交流の星城 V 英語の星城 VI SGL活動の推進 VII コース振興の基礎固め		
重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》 実施状況(◎実施したこと *今後の改善点 ◇自己評価理由)
I	規則正しい生活習慣	仰星コース 第1学年	○日頃から担任による健康管理についての呼びかけや、定期的な個人面談の実施により、生徒のメンタルケアを意識した指導を行う。 《年間出席率98%以上》 ◎担任の情報に加えて、副担任や教科担当の教員からも情報収集を行い、様子の気になる生徒については、担任による面談を実施した。また養護教諭も声掛けを実施し、状況把握に努めてきた。1学期欠席の多かった生徒は、面談などの効果から2学期に入って落ち着いた。 《1/31現在、欠席総数197日(内、欠席者63日を含む)》《出席率98.4%》 *2学期後半には、別の生徒の欠席が目立つようになった。面談や声掛けを実施しているが、生徒の異変に気づいた場合、早めの対応を心がける。 ◇一人落ち着くと別の生徒が欠席がちなという状態であったが、全体として目標であった98%を超えることが出来たため。
I	コンプライアンスの徹底 生徒主体の活動	第1学年	○学校のルールや社会的規範を守り行動することを学年集会で理解をさせる。そして、星城高校の生徒として一人ひとりが自ら判断・行動できる生徒に成長をさせる。また、学年リーダーを決め、級長とともに集合時間の徹底を行う。 ○級長・副級長の中から学年リーダー・サブリーダーを選出し、学年行事の運営や、集会時の整列指示・身だしなみの確認を促す。 ○1学年での級長・副級長会を実施し、上記内容が円滑に行われるよう、話し合いを行なう。場合によっては助言を行う。 《学年集会・式典において、リーダー・サブリーダーの指示で、11クラス中8クラス以上が、5分前に集合完了する》 ◎臨時休業により、スタート時点で建学の精神について十分に理解をさせることができなかった。しかし、学年主任講話を動画やリモートで行う新たな取組を実施することにより生徒に建学の精神の重要性を理解させた。 ◎後期には学年リーダー・サブリーダーを選出し、整列指示など生徒中心の活動を行うことができたことでリーダー養成につながる活動に取り組むことができた。また、集会の回数は記念館で2回のみであったが、5分前集合、チャイム開始を実行することができた。 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集会が行い難い状況である場合は、今後もリモートによる活動をしていく。 ◇学年リーダー・サブリーダーの選出を行い活動できたため。
I	自分たちで動くことのできる集団の育成	第2学年	○級長・副級長を中心に、生徒たちが自ら行動できるように指導する。級長会を定期的に開催し、級長発信でさまざまな行動を促す。コースリーダーを選出し、各種行事においてリーダーシップを発揮できるよう指導する。 《級長会を年間5回以上(1学期2回、2学期2回、3学期1回を目安)実施し、常にクラスの代表である自覚を持たせる》 ◎コロナ禍で定期的な級長会は開催できなかったが、臨時的な級長会も含めて年間4回の実施ができた。 級長会でリーダーシップについて指導を行ったため、文系コースのSGキャリアや特進コースのSGL活動で級長が中心となり、各活動を進めるなど、リーダーシップを発揮することができるようになった。 *学年統一の級長会ではなく、コースごとに柔軟な級長会を開催することを検討したい。 ◇目標回数には届かなかったが、SGキャリアやSGLで生徒主体の活動が見られたため。
I	自己抑制と他者意識の醸成	第3学年	○校外内における生活全般について、社会規範に則って行動ができる自己形成を目指す。他者がどう感じるか、他者にどう映るかを意識して発言や行動ができる生徒の育成を目指す。 《個人面談を年3回以上行い、自己を振り返らせるとともに、適切な振る舞いや言葉遣いについて指導する》 ◎個人面談を3回以上(クラスによって回数は異なる。)実施した。主に進路指導が中心であったが、面談を通して何事にも冷静な判断をする心の持ち方等に成長を促すことができた。また、ルールに則った行動はもちろん、周囲を気遣い行動することができるようになった。 ◇個人面談を3回以上実施したこと、3学期は進路決定者と未決定者が混在する中であったが、トラブルもなく行動でき、また卒業式における落ち着いた振る舞いを見ても、この3年で成長したと実感したため。
I	自修的努力の育成	仰星コース 生徒指導部	○日々の担任指導やロングホームルームなどの指導を通して、生活面での人格形成において高いレベルを目指す仰星コース生徒としてふさわしい自修的な努力を育成する指導を促進していく。 《年度後半に生活態度評価規準を作成し、担任が仰星コース生徒としてふさわしいと評価する生徒が全体の8割以上》 ◎6月および12月にClassiのアンケートにより、生活面、学習面、進路面における自己点検シートを配信し、生徒が自分を客観的に評価し、自修的な努力をして改善していくように意識付けを行った。 12月に実施した、各担任が生徒を「仰星コース生徒としてふさわしい」と評価した割合は全体で93.8%であった。生徒の自己評価では68.1%であった。 *12月の生徒の自己評価の未回答率が22.3%であったので、今後同様のアンケートを実施する際には、回答率が上がるように指導する。 ◇目標を達成したため。

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況(◎実施したこと *今後の改善点 ◇自己評価理由)
I	交通ルール遵守 マナーの向上	生徒指導部	<p>○愛知県警愛知署主催の「200日間自転車無事故・無違反ラリー」に参加し、交通ルール遵守を喚起していく。あわせて、このラリー期間中に、歩行通学者に対しても交通安全とマナーを喚起していく。</p> <p>○全国交通安全運動期間、本校自転車通学指導週間では、安全利用五則の徹底を図る。</p> <p>○各学期の始めに、生徒指導部から交通安全とマナーを啓発する言葉を発信していく。また、教頭・主幹の協力を得ながら、校門などで生徒へのマナー向上を啓発していく。</p> <p>《200日間自転車無事故無違反ゼロ達成・歩行通学者無事故無違反ゼロ達成 ※生徒が第1当事者ではない事故は除外》</p>	<p>◎愛知署管内での200日間自転車無事故・無違反は達成した。しかし、他地区で自転車通学者と自動車との接触事故が6件起きた。そのうちの1件は重大事故であった。また、交通マナーの苦情電話が続いたことから、9月に一度、全体指導を行った。12月には1年生対象に愛知県警察より自転車指導を行った。</p> <p>*令和3年度は、登校時の通学路巡回を重ねていく。</p> <p>◎新制服は、新たな星城と礼節の星城を思わせるデザインでも良い。また、集団美も整っていて、着こなしとしてマナー向上につながっている。</p> <p>*令和4年度入学生で全学年新制服となる。令和3年度中に、昨今の気候変動や、個人の体感温度の差、そして多様な価値観にも対応できるよう規定の見直しについて検討する。</p> <p>◇自転車の指導を集会やSTを通じて行ったが、自転車通学者と自動車との接触事故が6件起きた。そのうちの1件は重大事故であったため。</p>
I	健全な心身の育成	生徒指導部	<p>○各学年で実施する教育相談部講話の内容を充実させる。第1学年では、性的少数者(LGBT)への理解を深めることを目指す。第2学年では、異性との関係にどのように向き合えばよいかを理解し、興味本位ではない正しい性の知識と行動を身につけ、いのちについて考えさせる。第3学年では、人と人との関わりあいの中で、互いを大切にす気持ちと相手を尊重する心を考えさせる。</p> <p>《各講座終了後のアンケート調査で、90%以上の生徒が理解し、共感できたと感じられるように実施する》</p>	<p>◎各学年ともアンケートの結果は、99%の生徒から理解したとの回答があった。</p> <p>◎新型コロナウイルス感染予防から長期間の臨時休業となった。そこで、欠席や遅刻が多い生徒や気になる生徒などから担任による面談を行うよう依頼した。</p> <p>◎臨時休業中は、行政機関の相談窓口などをHPのアドレス付きでClassiで生徒へ案内した。また、教育相談だけでなく記載し生徒へ配付した。</p> <p>*今後も本校の建学の精神である「彼我一体」のもと、相手を尊重する心と態度の育成を図っていく。</p> <p>*いじめの防止に関して、管理職より「いじめは命にかかわる」問題につながるから早期発見、報告することの徹底が指示され、即座の対応をしていくことを全教員で共通認識した。今後もその徹底を図っていく。</p> <p>◇各学年のアンケート結果が未記入を除いて、100%理解したとの回答であったため。</p>
I	地区父母の会における保護者の出席率の増加	総務部	<p>○地区父母の会のイベントの1つである講演会を家庭での教育の指針となり、保護者の研修として役立つものとする。その内容により、地区父母の会の出席率を上げる。</p> <p>《地区父母の会への保護者の出席率が40%を超える》</p>	<p>◎第2回の父母の会常任委員会は実施したものの地区父母の会、父母の会総会がコロナ禍により今年度は中止となった。</p> <p>*昨年度までは地区父母の会を第3回までしか計画していなかったが、令和2年度は第4回まで計画し、保護者の参加し易い日程を選んでいただき、出席率の向上を考えた。令和3年度も第4回までの地区父母の会を計画している。</p> <p>◇実施できずに目標を達成できなかったため。</p>
I	同窓会のホームページの充実	総務部	<p>○同窓会のホームページがより多く更新できるように、同窓会役員と連絡を取り合い、校内での同窓会の出来事をブログ形式で発信できるよう、学校から同窓会への記事の提供方法等のシステムを構築する。</p> <p>《同窓会に関する記事を年間12件以上提供する》</p>	<p>◎今年度はコロナ禍の影響で同窓会の活動がほとんど無く、同窓会総会も中止となってしまった。しかし、ホームページは2月末までで12件の更新ができた。</p> <p>◎コロナ禍により、6月の役員会で同窓会総会の中止を決定した。代わりに規模を縮小した同窓会幹事会を8月下旬に開催して、同窓会に対する意識を高める活動を行った。これらの連絡・報告事項もホームページでおこなっている。</p> <p>◇目標の12件の記事をホームページに掲載することができたため。</p>
II	学習習慣の確立と基礎学力の養成	仰星コース 第1学年	<p>○国語・数学・英語の学力バランスを重視し、英語の学力養成として英語検定等を推進し、遅進者に対する個人指導をこまめに行い、不得意科目・項目をできるだけ減らす。</p> <p>《GTZでA段階以上が各半数以上》</p>	<p>◎令和2年8月20日実施スタディーサポート(75名受験)</p> <p>A段階以上 国語21名(B1段階12名)</p> <p>A段階以上 数学19名(B1段階26名)</p> <p>A段階以上 英語29名(B1段階14名)</p> <p>◎令和2年10月24日実施ベネッセ総合学力テスト(75名受験)</p> <p>A段階以上 国語16名(B1段階19名)</p> <p>A段階以上 数学21名(B1段階19名)</p> <p>A段階以上 英語18名(B1段階10名)</p> <p>◎放課後・夏期・冬期補習で入試問題や模擬試験の過去問(進研・全統)に取り組みせることで、対外的な学力が必要であることを意識させた。</p> <p>*習熟度別の授業(英語、数学)や、放課後の補習、延刻学習を継続し、より充実したものにすることで、半分の生徒(37名)がA段階以上になるように指導していく。</p> <p>◇達成率がそれぞれ国語:21/75(28%)、16/75(21.3%)、数学:19/75(25.3%)、21/75(28%)、英語:29/75(38.6%)、18/75(24%)のため。</p>
II	普通コース「基礎学力の向上」 特進コース「大学進学意識を高める」	第1学年	<p>○全コース1年生では、基礎学力の向上をはかる。朝の10分間学習で基礎を身に付けさせる。</p> <p>○スタディーサポートの事前シート・振り返りシートを活用し、GTZの向上をはかる。</p> <p>○担任は、データを基に面談を行い、3年後の進学・就職に向けた指導を行う。</p> <p>《特進・アスリートGTZ:A・Bゾーン20%以上 普通コースGTZ:Dゾーン50%以下》</p>	<p>◎朝の10分間学習について、落ち着いて活動することができた。スタディーサポートプランニングブックを活用し、今後の目標など設定することができた。特進・アスリート特進コースのGTZは、第1回スタディーサポートA・Bゾーン67.3%、総合学力テスト72.0%、第2回スタディーサポート75.2%であった。普通コースのGTZは、第1回スタディーサポートDゾーン67.8%、総合学力テスト64.1%、第2回スタディーサポート47.7%であった。</p> <p>*次年度も本年度同様に朝学を落ち着いた環境で行い、基礎学力を高め、目標を達成に向け面談等を活用した指導していく。</p> <p>◇特進・アスリート特進コースについては、目標値を達成できた。普通コースは、第1回スタディーサポート、総合学力テストが目標値を達成することができなかったため。</p>

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況(◎実施したこと *今後の改善点 ◇自己評価理由)
Ⅱ	進路に向けた学習活動の充実	第2学年	<p>○進学補習や検定試験への取り組みを促す。 《検定試験目標:年間の受験者300名以上》 ○朝の10分間学習から学習に向かう姿勢を養う。GTZ上位層への直接的な働きかけを行い、上位層が牽引する形で各クラスにおける学習意欲を高めさせる。 《本館目標:GTZのDゾーンを50%未満におさえる》 ○生徒一人ひとりの進路目標を明確にしてい中で、大学受験を意識した学習指導に重点をおき、模試の成績に関する数値目標を達成する。 《2号館目標:英数国総合偏差値50以上を30名》</p>	<p>◎検定へのアプローチを積極的に実施していく中で、年間受験者数は336名となった。 ◎朝学習時の見回りや担任指導により、集中して学習する姿が見られるようになった。本館GTZは11月ベネッセ総合学力テストにてDゾーン67.1%と目標値50%未満を大きく超えてしまったが、単独教科・科目でのBゾーン以上は国語34人、数学23人、英語21人、理科7人、日本史4人、世界史29人であったので、得意科目から牽引する形で学習結果に繋がりたい。2号館でも同テストにおいて英数国総合偏差値50以上は21名であったが、特理では5教科理系で9名、特文アス特では5教科文系で30名が偏差値50以上となった。 *検定試験受験を勧めたり、面談、進路情報を提供することにより、進路への意識付けを強め学習意欲を喚起させたい。 ◇検定受験者数と2号館目標偏差値は、目標が達成できたが、本館GTZ目標は達成できなかったため。</p>
Ⅱ	学力をはじめとする人間力の育成と保証	仰星コース 第2学年	<p>①【基本的生活習慣の確立】 「生活の記録 ～夢の実現のために～」なる学習・生活記録を、毎日コツコツと真面目に提出させることにより、最低2時間の家庭学習時間を確保することの重要性に気づかせ、かつ継続して物事に取り組む姿勢の大切さを養わせる。 《年間を通して欠かさず生活記録を提出する生徒・最低家庭学習時間2時間確保できるようになった生徒が6割以上になる》</p> <p>②【進路意識の高揚】 「月々、週ごとの私の考え。」なる個人カルテを用い、毎週様々な進路に関する質問に答えさせることにより、自分の進路に対する意識を高めさせる。時や場合に応じて、LHRや普段のホームルームを利用し、進路に関する情報を多面的に生徒に提供し、進路実現に向けた意欲を喚起し、将来の自分のあるべき姿の目標を設定させる。 《自分の進路について、明確なる大学・学部・学科名と、その難易度、自分の現状での合格可能性が答えられる生徒が6割以上になる》</p> <p>③【学習習慣の確立→意欲の向上→成績の向上】 今年度から設定された8:45分からの朝学習の時間では、僅か10分間の学習時間ではあるが、時間に遅れることなく、他の迷惑にならず、集中して学習に取り組む姿勢を養わせる。学習内容については「自修的努力」を第一とする。それこそが「質の高い学習」に繋がる。とはいうものの、生徒の学習に取り組む姿に応じては臨機応変に対応することもある。例えば「10分間で解ける数学の演習プリント」なるものも整えて臨む。そこを学習意欲の向上に繋げる一助とし、成績向上に繋げる。 《「自修的努力」により、時間に遅れることなく、他の迷惑にならず、集中して学習に取り組む姿勢を身に着けられた生徒。学習意欲が向上し「質の高い学習」に取り組む時間が増え、前回のスタディーサポートと比較して国語・数学・英語のGTZを維持または向上させる生徒が6割以上になる》</p> <p>④【資格取得へのチャレンジ】 現在取得している資格(英語検定・漢字検定・数学検定など)のワンランク上の級を取得すべく、資格試験に積極的に取り組ませる。 《資格試験に取り組む生徒が6割以上、その中で合格するものが6割以上になる》</p>	<p>①【基本的生活習慣の確立】 ◎「生活の記録 ～夢の実現のために～」なる学習・生活記録を、毎日提出させ、点検・評価して返却した。日を追うごとに忘れる者が多くなり、出さない者の中には、全く出さない、出せない者もいる。三者懇談会に於いて保護者にも1学期の学習・生活状況を報告し、学習時間の確保・物事に取り組む姿勢の大切さを三者で確認し合った。2学期以降、3学期も、当たり前のことを当たり前に実践することの大切さを実感させるべく、継続して指導を行った。 *コツコツ、忘れることなく、継続することの大切さを、面談等を通して今後も指導していく。 ◇「生活の記録 ～夢の実現のために～」なる学習・生活記録を、毎日提出させることができなかった。最後まで毎日欠かさず提出できたものは、4人だけであったため。 ②【進路意識の高揚】 ◎「月々、週ごとの私の考え。」なる個人カルテを用い、毎週様々な進路に関する質問に答えさせることにより、自分の進路に対する意識を高めた。また進路指導部からの冊子などを活用し、進路実現に向けた意欲も喚起させるようにした。さらに模擬試験前には、自分の考えてきた志望校について、受験科目を調べさせ模擬試験に臨ませた。 *ほんの僅かではあるが、未だに自分の進路を見いだせない生徒に向けた、話し合い等による指導を継続していく。 ◇「月々、週ごとの私の考え。」なる個人カルテなどを用いての進路指導を行ったが、自分の進路に対して全く考えられなかったものが1人出たため。 ③【学習習慣の確立→意欲の向上→成績の向上】 ◎8:45分からの朝学習の時間では、時間に遅れることなく、他の迷惑にならないよう、生徒一人ひとりが意識を持って、集中して学習に取り組むことができた。学習内容については、「自修的努力」を第一とすることが基本である。各自が自分で考えた学習に取り組んでいた。静かに集中して取り組んでいた。 *この調子で取組ませ、更なる学習意欲の向上、成績の向上に繋げていく。 ◇この点についてはAとなる。 ④【資格取得へのチャレンジ】 ◎1学期は新型コロナウイルス感染症防止の為に、臨時休業となり各自で申し込みをして資格取得に取り組んだ生徒もみられた。年間を通して受験した者は、数学検定が2人、漢字検定が16人、英語検定が31人(外部での受験者も含む)。合格した者は、数学検定が1人、漢字検定が8人、英語検定が11人(2次試験待ちの生徒も含む)であった。 *資格取得に一度もチャレンジしなかった者(希望する資格を既に取得している者を除く)、希望する級に達していない者の、資格取得への意欲を高める。 ◇希望する級の資格が取得できなかった者が、約50%を超えたため。</p>
Ⅱ	大学進学指導への注力	仰星コース 第3学年	<p>○模試の成績を分析して、各生徒の志望校の見直しを丁寧に行い、適切な進路目標に向けて学習させる。国公立大学については、第2志望、第3志望まで考えさせ、学力を最大限に生かすよう早期に指導する。また、生徒の成績を全教員で共有し、合格に向けて効率良く指導を進める。 《国公立大学合格者20名以上(旧帝大合格者3名を含む)》</p>	<p>◎学習記録を毎日つけさせ、志望する大学の受験科目を偏りなく計画的に学習するよう指導した。模試の成績を分析した結果、弱点を補強する必要のある教科科目について、個別指導を受けるよう促した。 ◎コロナ禍における受験への影響を考慮し、2学期末後から冬期補習期間を中心に全受験生を対象に共通テスト対策を重点的に行った。 *コロナ禍による大学の募集要項の変更点が多く、志望大学研究が徹底できなかった。今後は大学研究の徹底を図りたい。 ◇3月1日現在で、愛知教育大学2名、関西学院大学3名、関西大学1名、同志社大学1名をはじめとして、偏差値55以上の大学への合格数が26となったため。</p>

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況(◎実施したこと *今後の改善点 ◇自己評価理由)
Ⅱ	最後まで学び続ける集団の育成	第3学年	<p>○進学や就職をゴールと位置づけず、卒業後に最善のスタートを切るための準備として学び続ける意識を持たせる。4月中に「進路プラン」を作成させ、それを都度更新していく形で学びに向かう意識を定点的に観測させ、成長を止めることなく卒業テスト後の追試験ゼロを目標に学習に取り組ませる。</p> <p>○特進コースにおいては、最後までワンランク上に挑戦し続ける生徒の育成を目指す。 《特進コース国公立大学合格者10名》</p>	<p>◎4月に行った進路希望調査を元に臨時休業明けからすぐ担任による進路面談を行った。オンラインによるオープンキャンパスに参加することを勧めたこと、前年度から引き継いだ模試結果など生徒の個人データを元にして生徒個々に受験方法などを細かく指導し「進路カレンダー」を作成させたことなどによって、生徒個々に目標を明確に定めさせることができた。</p> <p>* 追認テスト該当者は13名となり、ゼロは達成できなかった。定期テストごとに成績が良くない生徒に対して家庭学習の大切さを指導する。また、欠点科目確認テストの合格率を上げていくことが必要であると感じている。</p> <p>◇国公立大学の入試結果はまだ出ていないが、共通テストの結果から10名の達成は困難と予測される。しかし、総合型選抜(AO入試)・学校推薦型選抜(推薦入試)において大学・専門学校183名、就職30名の生徒が年内に進路を確立させた(67%)。特進コースにおいては、進路決定後も星城大学への一般出願をはじめ、49名(60%)の生徒が国公立大学に出願し、最後までワンランク上を目指す指導に基づいてチャレンジしているため。</p>
Ⅱ	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善	仰星コース 学習指導部	<p>○「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を増やすために、主要教科で授業研修を実施して授業改善を進める。 《5教科で、各教科2回以上授業見学を実施する》</p>	<p>◎年2回の研究授業旬間に相互授業見学を実施する予定であったが、臨時休業の影響で前期6月は実施できなかったが、後期10月については実施し、各教科会において授業改善の検討をした。</p> <p>* 各教科での授業見学や生徒への授業アンケート等をもとに、引き続き授業改善を図る。</p> <p>◇臨時休業後に設定目標を見直し、後期10月に授業見学および教科会での検討が実施できたため。</p>
Ⅱ	長期休暇を利用した学力伸長	仰星コース 学習指導部	<p>○長期休業中の学習計画を立てさせ、担任が点検し、より高い学力の伸長を図る。 《80%以上の生徒が、自分の長期休業中の学習計画に取り組めた》</p>	<p>◎各長期休み前に学習計画表を配布し、長期休業中の学習を計画的に取組むよう担任から指導した。計画的に取り組めた生徒は、1年生が73%、2年生が71%、3年生が80%であり、全体では73.7%であった。</p> <p>* 第1・2学年における長期休業中の学習の取組について、直前のLHR時に計画を立案する時間を確保して改善を図る。</p> <p>◇仰星全体での達成率が73.7%であったため。</p>
Ⅱ	生徒の学習習慣の確立	学習指導部	<p>○進学に必要な基礎学力を向上させるために、家庭での学習時間確保を促す。</p> <p>①講話や学習・進路だよりで生徒に直接家庭学習の重要性を発信する。</p> <p>②教科主任会などで教員に家庭学習時間の情報を伝え、授業等で家庭での学習を促すようにする。 《スタディーサポートにおける学習時間調査の結果において、平日の学習時間「ほとんどしない」が40%以下》</p>	<p>◎4、5月の臨時休業により、課題プリントや課題動画を配信した。その課題を生徒が家庭で実施することで学習習慣が身につく、基礎学力の定着に繋がったと思われる。しかし、学校が再開になってから、家庭学習習慣が低下したことが、スタディーサポートの結果から伺える。</p> <p>第1回、第2回のスタディーサポートの結果(「ほとんどしない」の割合)の各学年の比較 1年生:20.3%→36.9%、2年生:40.2%→44.6% * 学習時間が30分以下(「ほとんどしない」を含む)の割合は第2回のスタディーサポートの結果、1年生:62.6%、2年生:61.4%であったので、家庭学習の時間を増加させる手立てを今後検討する。</p> <p>* 学習時間の確保や質の向上の必要性に関する情報を担任から生徒に発信する。</p> <p>◇1年生は、数値目標を達成したが、2年生は達成できなかったため。</p>
Ⅱ	進路目標実現のための学力向上	学習指導部	<p>○進学に必要な学力を身につけるための学習を促す。</p> <p>①学年会を通じて担任に実力テストの結果を提示し、面談等で活用するようにし、事前事後学習の指導を進める。</p> <p>②授業中心の学習の大切さを学習・進路だよりなどを通じて生徒に伝える。 《スタディーサポートにおける3教科のDゾーン生徒数が全体の55%以下》</p>	<p>◎スタディーサポートの結果を生徒に返却するときに、各担任が現状の分析や今後に向けてのアドバイスをするようにした。</p> <p>第1回、第2回のスタディーサポート(3教科)の結果(Dゾーンの割合)の各学年の比較 学年全体 1年生:45.5%→32.5% 2年生:38.8%→37.4% 普通コースのみ 1年生:68.1%→48.5% 2年生:56.0%→53.5% * Dゾーンの割合が改善されている現状があるので、今後もさらに授業や朝の10分間学習で基礎学力定着に向けた指導を行う。また、ベネッセの担当者から、現状の分析、今後の改善点の報告会を各学年毎で開く。</p> <p>* 改善した原因を特定することが十分にできなかったため、分析を細かくする。</p> <p>* 学習指導部内に英・国・数・(理・社)の弱点単元克服チーム(仮称)を配置し、朝学などを利用して各教科の弱い単元を集中して学習できるようにする。</p> <p>◇1、2年生ともに数値目標を達成したため。</p>

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況(◎実施したこと *今後の改善点 ◇自己評価理由)
Ⅱ	GTZの向上を意図した学習の徹底	仰星コース 進路指導部	○受験に対応できる実力を伸長させるとともに、学習の到達目標を明確にするためにベネッセのGTZを上げることに主眼を置いて日々の学習に取り組ませる。常に自己点検させ甘さが出ないように注意喚起を行う。全ての教員で生徒一人一人の成績を共有し、学力向上委員会で検討して、学力向上に有効な指導を適宜行う。進路指導部・担任は定期的(年3回)に進路面談を実施する。 《GTZで『S』または『A』の生徒が各学年50%を超えることを目標とする》	◎5月末まで臨時休業であったため第1回スタディーサポート(4月)は自宅受験させ登校日に回収してベネッセに郵送した。そのため、GTZ評価の信憑性は低いと判断している。また、未提出者も例年に比べて多かった。臨時休業明け以降は、遅れていた授業の挽回に終始し、また、物理教員の退職等の問題が大きく、落ち着いて学習指導できる状況ではなかった。特に、2年理系および3年理系への影響が甚大であった。 ◎第2回スタディーサポート(8月実施)の結果は以下の通り。1年S:5名、A:27名、B:29名、C:7名、D:1名、[SA46.4%]。2年S:3名、A:10名、B:32名、C:6名、D:0名、[SA35.3%]。 *今後、目標達成のための指導をさらに検討して、具体的に進める必要がある。また、星城中学出身者の中で、GTZのS・Aに大きく及ばない生徒が一定数おり、到達率を下けている。 ◇目標が達成できなかったため。
Ⅱ	進路講話の充実	仰星コース 進路指導部	○ベネッセや河合塾等による進路説明会を通して社会で求められる人材と能力を把握させ、自分が身につけるべき能力を理解させる。 《実施後のアンケート調査を行い、80%以上の生徒が学習活動への参加を有意義ととらえ、その目的を実感・理解することを目標とする》	◎5月末まで臨時休業であり、休業明け後も3密を回避するために学年全体に対する集会や講演会は中止とした。3年生に対しては4月初旬に、希望者を対象に個別に次の説明会を実施した。①推薦希望者説明会②国公立大学希望者説明会③共通テスト出願指導 ◎1年生を対象とした学年保護者会を10/17(土)に実施し、本校の推薦基準、文理選択、類型選択の基本方針を説明した。 ◎2年・3年に対しては学年保護者会が実施できなかったため、必要な情報は書面に保護者宛へ配付した。 ◎例年実施しているベネッセ講師による進路説明会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、学年への進路指導講話は実施できなかった。 ◎3月の特別学習活動時に現2年生に対してクラス単位で進路説明会を予定しており、その中で大学受験の仕組みや心構え、本校の推薦基準等を指導する。 ◇予定していた進路説明会や進路講話はコロナ禍で実施できなかったが、個別に説明会を実施し、進路関係の必要な情報伝達や指導は必要な時期に実施してきたため。
Ⅱ	学習習慣の定着と進路目標の早期設定進学実績の向上	進路指導部 特進 アスリート 特進コース	○1年生:学習習慣の定着と学習意欲の継続のため、朝学習を活用して検定受験に向けて取り組ませる。 《1年生特進:全員が漢字検定・数学検定・英語検定を受験する。アスリート特進コースは可能な限り受験する》 ○2年生:早い段階で各自の得意・苦手科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。 《ベネッセ総合学力テスト(11月)において、国英数総合偏差値50以上が30名》 ○3年生:学級担任による個人面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。 《国公立大学合格者10名、難関私立大学合格者10名》	◎1年生:英検については第2回33名、第3回40名、トータルで63名が受験した。アスリート特進コースも第3回に9名が出願した。対策としてスピーキングとリスニングを主とした特進英語補習を開講し、1年生28名、2年生12名が受講した。 *検定の受験数ばかりでなく進研模試の目標数値を設定し11月の全員受験で意識付けができるよう指導していきたい。 ◎2年生:ベネッセ総合学力テスト(11月)国英数総合偏差値50以上は21名であった。国英社と英数理総合を含めると39名であった。模試の結果に基づいて志望校の一覧表を作成し受験方式や配点などの指導を行った。特進集会を実施し2年生3月から3年生3月までの学習及び受験スケジュールを計画させた。 *模試の3教科総合を国英数に限定せず理系の理科、文系の地歴公民にも注視し得意科目を伸ばしていきたい。 ◎3年生:共通テスト5教科受験を今年度も実現し、5年連続で達成することができた。特進コースには完全に定着したことになる。国公立大学出願数は延べ50名となった。実人数では30名となった。特に特進理系に関しては2年連続でクラスの約半数(今年度11/21名、昨年度18/40名)が国公立大学に出願した。12月には受験カレンダーを作成し受験プランを立てさせ、指導に繋げた。 *来年度、国公立出願50名超を3年連続達成し特進の国公立受験定着を目指したい。 ◇全学年ともに目標に向け良く取組んだことと、特に3年生に関して国公立出願数50超を達成し2年連続の成果となったため。

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況(◎実施したこと *今後の改善点 ◇自己評価理由)
II	学力の定着	進路指導部	<p>○日々の授業を大切にするとともに、入試問題や模擬試験の過去問などにも取り組み、学習意欲の向上を図る。</p> <p>○特進コースにおいては、特進代表者会議において進路検討会を適宜開催し、生徒の受験の仕方についてコース内で情報を共有し、個々の能力に応じた進路指導をしながらよりよい進路へと導く。</p> <p>《3年生国公立大学出願延べ50名 2年生進研模試英国数総合偏差値50以上30名 1年生進研模試平均偏差値48以上》</p> <p>○普通コースにおいては進学補習、小論文講座やライティング講座を積極的に受講させるとともに各種検定にも挑戦させる。《大学・短大合格者延べ200名》</p>	<p>◎3年生は6月と9月に実施した共通テスト模試の対策問題を過去問なども含めて取組んだ。1、2年生においても11月の進研総合学力テストを全員受験させたことにより模試の対策に取り組むことができた。結果データをまとめることで保護者会の資料を作成したり、コース選択の資料に活用することができた。</p> <p>◎特進代表者会議において進路検討会を複数回実施し受験方針を固めたり、受験生各々の志望校を検討した。</p> <p>1年生進研模試平均偏差値国数英3教科総合47.0、国語48.3、数学47.0、英語47.1であった。</p> <p>生徒学力の分布として上位層が少なく、中間層と下位層が多いことが考えられる。朝学や6限後の僅かな時間を利用して様々な教科指導を行った。</p> <p>*2020年度入学生に関してはただ単に平均偏差値で目標を設定するのではなく学力層に応じた目標設定を必要とする。</p> <p>◎小論文講座受講3年生基礎58名、実践12名 合計70名 ライティング講座受講3級21名、準2級以上20名 合計41名 検定出願数は下記の通り 英検第2回：1年生66名、2年生84名、3年生13名 合計163名 漢検第2回：1年生98名、2年生75名、3年生40名 合計213名 英検第3回：1年生88名、2年生75名、3年生7名 合計170名 漢検第3回：1年生145名、2年生80名 合計225名 数検(年間)：1年生40名、2年生47名、3年生1名 合計88名 英検合格者 2級5名、準2級24名、3級21名 漢検合格者 2級3名、準2級25名、3級35名、4級6名 数検合格者 2級2名、準2級18名、3級14名</p> <p>◎普通コースの大学・短大合格者数は延べ151名であった。目標には到達していないが普通コースのみで中京大学5名、愛知学院大学17名、中部大学10名、名城大学2名、名古屋学院大学13名と中堅クラスに多数合格している。</p> <p>◇3年生全コースが受験に対する取組のなかで生徒学力の向上を図ることができた。また、特進全学年が模試の対策やデータの分析によって学力向上に繋げることができた。小論文講座や各種検定の取組により全学年が学力向上に尽力したため。</p>
II	進学実績の向上	進路指導部	<p>○特進コース全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。将来的に国公立大学合格30名達成のための礎として国公立大学出願延べ50名をめざす。</p> <p>○私大入試の難化を受け、難関私立大学に受験する者には積極的に国公立受験を勧めていく。</p> <p>○学校推薦型選抜、総合型選抜(AO)を積極的に活用し、県内私立大学を中心に合格者の増加を目指す。</p> <p>《国公立大学合格者10名、難関私立大学合格者10名》</p> <p>○普通コースにおいては、コース振興実行委員会との接点を模索しつつ星城独自の探究学習を考えながら、キャリアアッププランを再構築することでより深い学びと進学実績の向上に繋げていく。</p> <p>○内部進学者増を目指し、進路相談会などを企画・実施する。</p> <p>《内部進学者40名》</p>	<p>◎国公立大学出願数は延べ50名となった。(実人数で30名)</p> <p>特進全クラスの37.5%が出願し、特に特進理系に関しては2年連続でクラスの約半数(今年度11/21名、昨年度18/40名)が国公立大学に出願した。</p> <p>◎指定校推薦によって、37名が進路を獲得することができた。例年6月に実施していた推薦基準模試を9月に実施することで夏休み中熱心に学習に取り組んだ生徒が多数いたため学力が向上した結果である。その他、総合型選抜・公募制推薦・一般においても成果が上がり愛知大学5名、中京大学20名、名城大学16名、愛知学院大学31名など県内の私大の合格者が多数出た。</p> <p>*来年度は6月の進研模試を全員受験とし、その結果をもとに保護者会で目標設定をすることで推薦基準となる9月の模試に向けた動機付けをしっかりとさせ、夏休み中の補習参加など促し、生徒の学力向上に繋げていく。</p> <p>◎内部進学者は39名で目標には到達できなかったものの昨年(23名)を上回る実績となった。一般入試にも延べ24名が出願している。</p> <p>◇特進コース3年生の成果、指定校推薦の獲得数の増加、県内私大の進学実績、内部進学者数の増加などの実績を上げたため。</p>
II	第1次就職内定率の向上	進路指導部	<p>○生徒の希望と企業の特性や仕事内容とのミスマッチを防ぐために、十分な面談を行い生徒の個性を把握する。</p> <p>経済状況の陰りも手伝って求人減少が否めないことと、新型コロナウイルスの影響で相当数の企業が採用を見送るなど危険な現象が予測される。よって、就職への意欲の強いことの確認となお一層の礼節指導を徹底する。</p> <p>《第1次就職内定率100%》</p>	<p>◎生徒の面談を実施して個性を把握する予定であったが、学校の開始が6月となってしまいその実施が不可能となってしまったため、担任を通じて生徒情報を共有した。</p> <p>◎第1次就職内定率100%の目標に対して、32名の就職希望者が受験した結果6名の不合格がでてしまい内定率は81.3%となった。</p> <p>*来年度も新型コロナウイルスの感染状況が読めないが、リモート面談やオンラインを使つての企業説明会などの形式が増えると思われる。タブレットなどを通じての対応策(本年度は2件体験済み)を練ることが必要だと感じている。</p> <p>◇目標は達成することはできなかったが、80%以上に達しているため。</p>
III	部活動ガイドラインに則った部活動運営	部活動支援	<p>○各クラブの活動計画に基づいて部活動の現状を把握し、運営・管理を徹底する。</p> <p>○「星城高等学校部活動ガイドライン」に則った部活動の運営を徹底し、体罰等のない健全な部活動運営を行う。</p> <p>《部活動における不祥事ゼロ》</p>	<p>◎新型コロナウイルスの影響による臨時休業や各種大会の中止に伴い、各部活動の練習計画も変更を余儀なくされた。特に臨時休業明けの練習については、生徒の体力面の低下に配慮した練習メニューを設定すると同時に、心のケアも行うよう各部活動顧問に依頼した。</p> <p>◎部活動顧問に対し、不祥事等のない部活動の運営を徹底するよう伝達し、健全な部活動運営に努めた。</p> <p>◇教員によるトラブルが1件あったため。</p>

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況(◎実施したこと *今後の改善点 ◇自己評価理由)
III	強化部の入学生徒の増加と特待生徒の指導強化	部活動支援	<p>○「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化し、強化部の入学生徒増を目指す。</p> <p>○人間性と技術面の両面での向上を目指し、奨学生任命式や日々の部活動指導を通じて、「本校が求める強化クラブ・スポーツ奨学生のあるべき姿」を生徒自身に考えさせ、具現化を目指す。</p> <p>《スポーツにて生徒150名確保》</p>	<p>◎生徒募集面では、サッカー部が強化指定部になり今年度より奨学生を取るようになって15名の奨学生、それに付随して数名の生徒が入学し、これからの楽しみな部活である。</p> <p>*各部活動生徒に対して、色々な面で星城高校の生徒の模範となるような自覚を持つよう指導していく。</p> <p>◎「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化し、強化部の入学生徒増を目指して、募集委員会や広報が募集努力をしてくれている。また、強化部の入学者の増加と特待生徒の指導強化を図るため、スポーツ推薦・奨学生等で目標を達成できるよう次年度入学の募集関係の顧問会議(9/14)を実施した。</p> <p>令和3年度入学生 アス特34名 スポーツ推薦・奨学生92名 合計126名</p> <p>◇目標の150名が確保できなかったため。</p>
III	部活動運営の把握と管理	部活動支援	<p>○各種大会日程や結果を広報し、部活動の活躍を応援する体制作りに努める。</p> <p>○全国大会出場に向けての環境作りと支援を行う。</p> <p>《全国大会出場生徒100名》</p>	<p>◎新型コロナウイルスの影響で、インターハイや国民体育大会が中止になり、3年生にとっては非常に残念な年になってしまった。また、各競技団体が代替大会の実施について、実施方針に統一がとれない状況であった。</p> <p>◎令和2年度全国高等学校選抜大会には12月に弓道部(4名)、1月にバレーボール部(18名)が出場。3月には、空手部(14名)・女子剣道部(7名)・女子ソフトボール部(25名)・レスリング部(2名)・柔道部(1名)が出場予定である。(全国選抜大会等出場生徒 合計71名)</p> <p>◎部活動顧問に対し各種大会結果報告を提出するよう依頼をしても提出しただけの部活動があり、共有フォルダの部活動支援のフォルダの中に各種大会戦績報告(クラブ別)に各部活のフォルダを作成し、各部活の顧問に大会終了後や試合終了後に結果をいれてもらうようにした。</p> <p>◇全国大会出場生徒が100名にならなかったが、インターハイ等が中止になった中での68名出場のため。</p>
IV	本校主催の交換留学短期留学を継続性のあるものへ導く	庶務・国際交流部	<p>○令和2年度の国際交流プログラムはすべて中止となった。しかしながら、本校の魅力のひとつであることに変わりない。次年度以降の実施を視野に入れながら、建学の精神である「世界観の確立」に向け、学校説明会などでこれまでの取り組みについて情報発信をしていく。</p> <p>《今年度の数値目標は設定しない》</p>	<p>◎学校説明会などでは、国際交流ブースにて本校の国際交流への取り組みを、中学生やその保護者に伝えることができた。その際には、次年度実施の可能性を問われることも多々あり、本校の取組が期待されている感触を得ることができた。</p> <p>◎海外での教育活動はできなかったが、それに代わりにオンラインでの国際交流の可能性を探ることができた。</p> <p>1. パラオ柔道交流 令和2年12月9日実施 2. ブルガリア交換留学オンライン交流 令和2年12月19日実施</p> <p>*交流活動は相手がいなければ何も始めることができず、そのためにもこれまでの関係を維持するため、継続した取り組みが必要である。</p> <p>◇オンラインによる交流を実施することができたため。</p>
IV	広報活動	庶務・国際交流部	<p>○ホームページブログの記事について、年間365件以上の掲載を目指し、学校説明会やパンフレットでは伝えきれない、星城高校の日常を伝える基盤を構築する。</p> <p>さらに、文章や写真だけで無くリアルな情報を届けるために、動画を含めたブログ記事での発信に力を注ぎたい。年間30件の動画配信を目指す。</p> <p>《年間365件のブログ記事、動画30件を掲載する》</p>	<p>◎コロナ禍のため、臨時休業や多くの学校行事が中止となり、また、各部活動の試合までもが中止となり、星城生の活動が止まってしまった。このことにより、ブログの作成が滞った。それでも、133件の記事を掲載することができた。</p> <p>(2021/2/19現在)</p> <p>また、学園祭や国際交流の様子などを動画として掲載することもでき、その再生数から多くの閲覧をいただいていることが分かった。</p> <p>*本校HPでしか見ることのできないコンテンツを作成し、星城生の生の活動を伝える基盤を構築していきたい。</p> <p>◇目標数値が達成できなかったため。</p>
V	英語学習の促進	仰星コース第3学年	<p>○英語の学習を促すため、毎朝語法問題プリントを配布し、演習問題に継続して取り組ませる。</p> <p>《英検準1級合格者3名以上、2級合格者20名以上》</p>	<p>◎毎朝の語法プリントの演習問題に継続して取り組み、今年度の新たな英検準1級合格者は2名、2級合格者は5名となった。ここまでで2級既得者が19名となり学年における2級以上取得者の割合が38%となった。</p> <p>*今後も、取組を継続したい。</p> <p>◇目標に対して、準1級が67%・2級が95%達成したため。</p>
VI	「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」への参画	仰星コース第2学年	<p>①「主体性の向上」を志向し、グローバルな視点での学びを実践する。</p> <p>②「探究力の向上」を志向し、ローカルな視点での学びを実践する。</p> <p>③「協働性の向上」を志向し、外国人・高齢市民との協働による学びを実践する。</p> <p>④「発信力の向上」を志向し、課題解決に向けた学びを実践する。</p> <p>《上記4項目の成果として、「地域協創プロジェクト実践報告書」の作成や「ポスターセッション形式での成果発表」をして、実施後のアンケートの結果、満足いくものであった生徒が80%以上》</p>	<p>◎1年間の活動を終えた時点での「ルーブリック評価表」のまとめによると、①「主体性の向上」・②「探究力の向上」・③「協働性の向上」(ルーブリック評価表では協働性に変更)に於いては、80%の生徒がレベル3(1～4までの内)以上の域に達していると評価している。④「発信力の向上」に於いては、60%を切る評価をしている。「啓発素材開発企画」を通して、努力・工夫を凝らして頑張っていたが、自分自身の評価が厳しかったものと考えられる。</p> <p>*SGL活動を通して、各自が振り返りシートに書いた「自分自身が成長したと思う点」を、生徒一人ひとりが更に高められるような企画を考える。</p> <p>◇実施後のアンケート結果が、71.3%であったため。</p>

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況(◎実施したこと *今後の改善点 ◇自己評価理由)
VI	コンソーシアムの活性化	SGL開発部	<p>○新たに豊明市商工会と豊明市青年会議所がコンソーシアムに加わるように依頼し、調整する。各コンソーシアム構成機関とSGL活動の取組に関する協定書を締結する。コンソーシアム会議を年3回開催し、取組状況の共有や課題の協議などを行う。探究学習の進捗状況に応じてSGL主任は各関係機関との協議を継続的に行う。各コンソーシアム構成機関と本校生徒が協働で外国人市民と高齢市民が参加する地域活動を企画開発し、実践する。</p> <p>《2年生地域協創プロジェクトで全探究班がコンソーシアムとの協働で地域活動を協創、コンソーシアム会議の予定した回数の実施》</p>	<p>◎豊明市商工会と豊明市青年会議所が新たにコンソーシアムに加入し、協定書を締結した。</p> <p>◎2年生SGL地域協創学Ⅱの地域協創プロジェクトでは、コンソーシアム関係者が各教室に入り地域課題解決に向けた啓発物開発に協力した。</p> <p>◎コンソーシアム会議は新型コロナウイルス対策のため、第1回はメールでの連絡、第3回はメールでの意見聴取とし、予定の3回を実施した。</p> <p>◇全探究班がコンソーシアムと協働で啓発物開発に取組、コンソーシアム会議は緊急事態宣言中はメールで、そうでない場合は本校で予定回数実施したため。</p>
VI	生徒の主体性及び探究力の向上	SGL開発部	<p>○1年生の花溢れる街づくりプロジェクトは年1回から年2回実施へ変更して6月はまず地域協働の体験をする。10月は6月の体験を踏まえて各探究班がプロジェクトの企画運営を行うことで生徒の主体性を育む。2年生の地域協創プロジェクトは各探究班とコンソーシアム構成機関がタッグを組んで新たな地域活動の企画開発と実践に取り組むことで、生徒の探究力向上を図る。</p> <p>《学期ごとに行うルーブリック評価で生徒の主体性と探究力の向上が見られる》</p>	<p>◎1年生ルーブリック評価[レベル1(低)～レベル4(高)]集計の2学期と3学期の主体性の比較において、特進コースではレベル1が0.9%から1.7%へ増加、レベル2が37.5%から19.1%に減少、レベル3が35.4%から54.8%に増加、レベル4が6.3%から24.3%に増加した。</p> <p>◎2年生ルーブリック評価[レベル1(低)～レベル4(高)]集計の2学期と3学期の探究力の比較において、特進コースではレベル1が8.9%から2.3%へ減少、レベル2が22.2%から20.7%に減少、レベル3は45.6%から47.1%に増加、レベル4は23.3%から29.9%に増加した。</p> <p>◇1・2年生ともに、レベル1・2(低)よりもレベル3・4(高)の方が割合が高く、生徒の主体性と探究力の向上が見られると判断できるため。</p>